

自律する子の育て方

工藤勇一、青砥端人(SBクリエイティブ 2021.5)

元中学校長と脳神経科学者の共書。著者は、教育のあり方に一石を投じ、教育現場や家庭で建設的な議論が活発になることを目指しています。「子どもが主人公になる教育」の広がりを願っているようです。

◆心理的危機

激しく怒られるほど頭には残らない

同じミスを繰り返す子どもがいたら、「子どもに問題がある」と考えるのではなく、「**大人がそれをどう伝えていたか**」にも意識を向ける

◆新しいことへの期待

「未知への恐怖」を「新しいことへの期待」に変えるには、「**未知を乗り越える体験**」(下記)を繰り返すこと

- ・ 何かに挑戦して成功した体験
- ・ 失敗しても責められなかった体験
- ・ 失敗から学べた体験
- ・ 工夫すればなんとかなった体験

◆子どもに自己決定を促す「3つの言葉」

安心できる環境を作ることと、ストレスに強い脳を作ることが同時にできる魔法のような言葉がある。

- 1 **どうしたの?** (何か困ったことはあるの?)
- 2 **君はどうしたいの?** (どうしようと考えているの?)
- 3 **何を支援してほしいの?** (支援できることはある?)

◆理想を求めない

子どもが安心できる場所に変える、最も即効性の高い方法は、大人でも**理想的な人物像を子どもたちに求めない**ことです。